どんぐり

No.77

主な内容

○ 巻頭言「コロナ禍での『温故知新』」
○ 令和２年度自然学校実施報告書のまとめから
○ 令和２年度自然学校についてのアンケートから
○ コロナ禍における本校の取組について
○ 自然学校における健康管理について
○ 令和３年度講座・研修会のご案内

「１人用テント設営」（令和２年度 小野市立下東条小学校）

兵庫県立
南但馬自然学校
HYOGO KENRITSU MINAMI TAJIMA SHIZEN GAKKO
Nature Education Center

コロナ禍での「温故知新」

兵庫県立南但馬自然学校
校長　森山　剛

時の経つのは早いもので、平成から令和になって3年目になりました。ここ朝来市は、但馬地域の南端に位置し、四季折々に変化に富んだ自然が豊富で、竹田城をはじめ、歴史的文化的な資源も多くあります。こうした環境は今まで通りですが、新型コロナウイルス感染症によって、大きく様相が異なることになりました。それは、各学校でも、また本校への自然学校受け入れについてでも同様です。

今年度は、まさに新型コロナウイルス感染拡大とともに進んできました。4月5月の緊急事態宣言に伴う一斉休校、その間のＩＣＴを活用しての遠隔授業などの対応、宣言解除後の授業再開に関する感染予防対策、学校行事などの抜本的な実施再検討など、これまで学校現場が経験したことのない課題の連続でした。子どもたち、保護者、地域の方々、そして学校教職員が精一杯の知恵と工夫を講じて、ここまで対応してこられました。

こうした困難な状況や判断に迷うような場面では、私自身は、「元に戻って考えること」を大切にするようにしています。故きを温ねて新しきを知ることこそ、先人たちの経験則であり、このような状況下に必要なことと考えます。

兵庫県の自然学校推進事業は、今から33年前の昭和63年度に始められました。事業開始の契機となったのは、その前年開催された「こころ豊かな人づくり懇話会」の提言です。それは、「人は自然とのふれあいの中で自然の神秘、優しさ、恐ろしさなどに感動し、豊かな感性、問題解決能力、粘り強さなどを培うとともに、人とのふれあいを通して、生きる喜びや苦しみを知り、思いやり、協調性、社会性を身に付ける」というものでした。

自然学校は何のために行うかとの問いの答えはこの提言です。原点に立ち返って考えれば、これまでの自然学校事業が見えてきます。提言に謳われることは、通常の学校現場の実践だけでは達成困難です。だからこそ、兵庫県は1週間の長丁場で学校や家庭を離れ、大自然の中に身を置き、十分な自然体験による感動を、5年生児童に味わってもらうことに取り組み続けてきました。そして、この自然学校で得られるはずの感動は、いかにＩＣＴが発達しても、実体験でしか得られないことです。このことは、コロナ対応によって気づかされたことになりました。

次に、どうやって感染拡大を避けながら、自然学校を行っていくかが課題となりました。本校ができることは、精一杯やろうと、職員一丸となって子どもたちを受け入れる準備を始めました。食堂手洗いの自動水栓やサーモグラフィ、食卓への飛沫飛散防止シールド設置、各館の換気設備能力の向上などハード面に加えて、利用後の消毒作業、発熱などの体調不良の子どもが出た場合の対応マニュアル策定、職員の毎日の検温及び健康状況確認などソフト面の両面から取り組みました。

こうして、今年度は宿泊で28校、日帰りで14校に自然学校での利用をいただきました。例年に比べると少ない利用に留まりましたが、反対にご利用校には、どうしても南但馬で自然体験させたいという先生方、保護者の方々のご努力と工夫と決断をいただき、感謝の思いでいっぱいです。ただ、4泊の自然学校でなかったことに、不完全燃焼の感は否めませんでした。先述の提言が示す自然学校の目的を改めて噛みしめながら、次年度以降の取組を進めていきます。

令和2年度 赤穂市立城西小学校「隠れ家づくり」

令和２年度自然学校実施報告書のまとめから

自然学校のねらいの達成状況について

本校では７つの「自然学校のねらい」を設定しています。それらのねらいの達成状況について、利用校から提出していただいた「自然学校実施報告書」を集計したものが下の図１です。「十分達成できたと思われる」と回答した利用校数を全利用校数に対する割合で表しています。上段が令和元年度、下段が令和２年度の結果です。

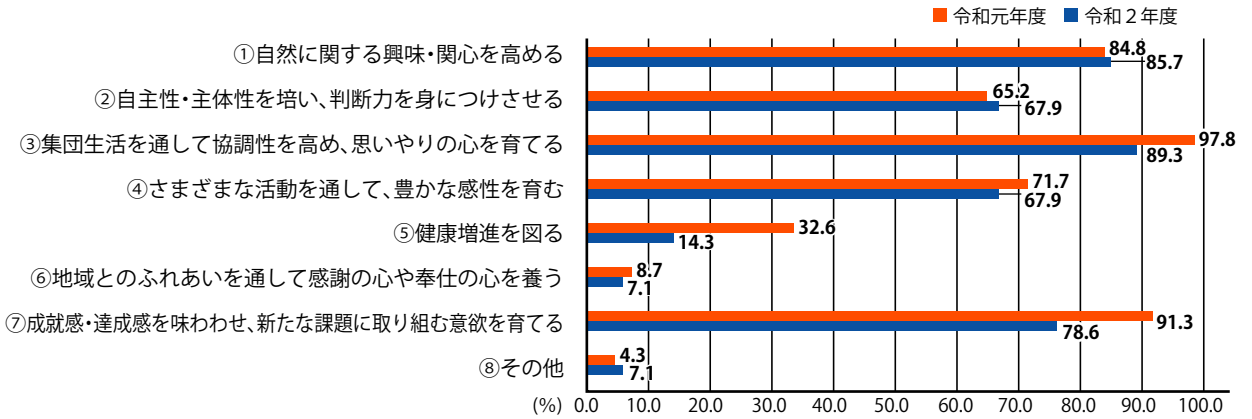

図１ 自然学校のねらいの達成状況

７つの項目のうち、５つの項目において、前年度を下回る結果となっています。本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、自然学校を「期間短縮」で実施したり、「宿泊なし」で実施したりすることになりました。利用校からは、「これまでどおりの４泊５日での実施と比べると、活動が制限され、本来のねらいに迫ることができなかった」等の声が聞かれました。顕著な項目としては、「⑤健康増進を図る」は18ポイント以上下がり、「⑦成就感・達成感を味わわせ、新たな課題に取り組む意欲を育てる」は12ポイント以上下がっています。利用校からは「４泊５日で実施できていれば、多様な活動を展開することができた」「４泊５日で実施できていたら、もっと多くの場面で達成感・成就感を味わわせることができたはず」等の声が聞かれました。

コロナ禍にもかかわらず、各市町、各学校は活動内容に工夫を凝らし、学習活動を展開されましたが、豊かな自然の中での４泊５日以上の長期宿泊体験活動の有用性や価値を改めて認識する結果となりました。

事前・事後指導の充実

下の図２は、「『事前・事後の学習活動の一層の充実』を意識しながら自然学校の充実を図ることができたか」という質問に対する、３年間の利用校の回答をまとめたものです。

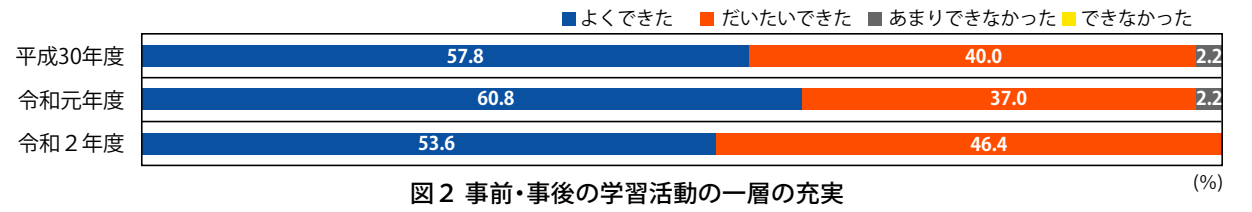

図２ 事前・事後の学習活動の一層の充実

「よくできた」「だいたいできた」と回答した学校の割合は、平成30年度97.８%、令和元年度97.８%であったのに対し、本年度は100%となっています。本年度の自然学校期間は短縮になりましたが、各学校が自然学校の充実を図ろうと工夫されていることが確認できたとともに、県教育委員会が『指導の重点』の「体験活動」の重点実践事項として挙げている「達成感や自己有用感を高めるための学習活動の工夫と事前・事後指導の充実」が浸透してきたといえる結果となりました。今後、各校の事前・事後指導の位置づけがさらに明確化され、その後の生活や学習につながる効果的な体験活動が展開されることを期待します。

（宿南　恵介）

※ 令和２年度については令和２年12月末までの利用校のデータ
※ 自然学校を複数校の連合で実施した場合は、連合で１校とカウント

(2) 新型コロナウイルス感染症に関して

ア 不安について

不安が「あった」は教員で54.3％、保護者で42.9％、児童で30.2％、「なかった」は児童で68.5％、保護者で55.3％、教員で40.0％の順となりました。〈図２－１〉

「どのような場面を不安に感じたか」では、「バス内」が最も多く、次いで「食事中」「集合時」「生活時」「入浴時」「活動中」「休憩時」の順となりました。〈図２－２〉

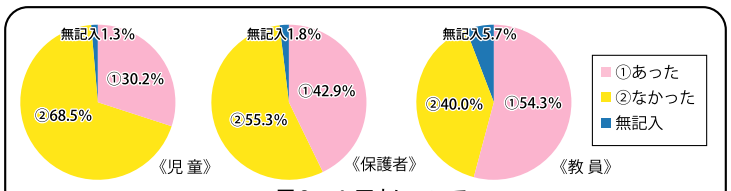

図２－１ 不安について

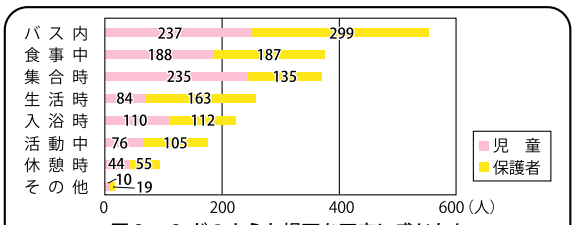

図２－２ どのような場面を不安に感じたか

イ 感染防止対策について

「マスクの着用」が最も多く、次いで「手指消毒」「手洗い」「うがい」「大声を出さない」「身体的距離の確保」「清掃」の順となりました。〈図２－３〉

自然学校期間中は、利用校による日々の健康観察や場面・状況に応じた声かけが行われ、児童が自主的に行動する様子から、きめ細かな指導が行き届いていたと思われます。

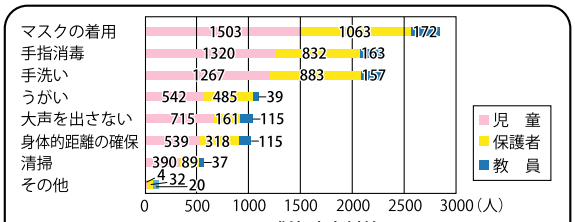

図２－３ 感染防止対策

また、教員の回答の中には、“もしも児童に感染させてしまったらどうすればよいか”といった不安に関する記述もありましたが、児童への指導や家庭での習慣づけの協力依頼、利用施設内の定期的な換気、バスや本校食堂の座席配置の工夫等の対策が、図２－１に示される児童・保護者の不安の軽減につながったと考えられます。

(3) 自然学校の望ましい期間（新型コロナウイルス感染症の影響がなかったと仮定して）

「４泊５日」及び「４泊５日以上」は児童で89.7％、保護者で85.1％、教員で69.1％、「４泊５日未満」は教員で29.7％、保護者で13.7％、児童で10.1％の順となりました。〈図３〉

また、主な理由を分類すると、表③の通りとなりました。

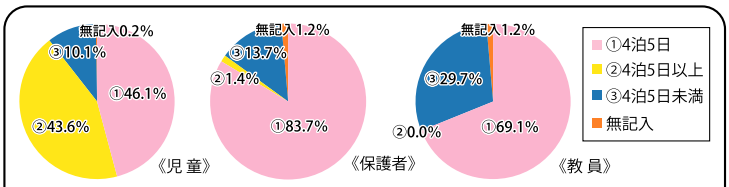

図３ 自然学校の望ましい期間

本年度の短期間（「日帰り」「１泊２日」「２泊３日」）の自然学校を経験した中で、“「４泊５日」及び「４泊５日以上」が望ましい期間”とした回答は、児童・保護者・教員ともに、それぞれ約７割以上ありました。

そのうち、教員の回答の中には、“心配や不安なこと”が想定される記述が幾つかあり、望ましい期間は「４泊５日」が限度として捉えられていたと思われます。

これに対し、児童と保護者の回答の中には、“心配や不安なこと”に関する記述もありましたが、“期待できること”に加えて更に、我慢して自ら乗り越えたり、新たなことに挑戦したりする経験の機会とするためには、「４泊５日」及び「４泊５日以上」の期間が多くの方から望まれていることが分かりました。

表③ 主な理由

	期待できること	心配や不安なこと
児　童	・友情を深められる ・様々な体験活動ができる ・自分のことは自分でできるようになる ・自然にたくさん触れられる	・家族と離れること ・普段の生活との違い ・怪我に関して
保護者	※児童の上記内容と同様	・児童の精神面・体力（調）面 ・荷物や準備物（経済面）が増えること ・教員への負担
教　員	※児童の上記内容に加え ・活動の合間の『生活』の時間にも余裕を持って大切にしたい ・失敗を活かした成功体験を得る期間が望ましい	・児童の人間関係 ・児童の精神面・体力（調）面 ・配慮が必要な児童への対応 ・職員の指導体制 ・授業時間の確保

3 まとめ

本年度は４泊５日以上の自然学校の実施が困難な状況となりましたが、アンケートによって自然学校推進事業は、「学校や家庭を離れた自然の中でじっくりと時間をかけ、自然体験による感動を味わうこと」により、“児童の成長につながる機会”として大きく期待されていることを改めて認識できました。

本校は、今後も利用校との連携をより一層深め、様々な自然体験の場を提供するとともに、安全・安心に向けた環境整備に努め、自然学校の充実に取り組んでいきたいと思います。

（水野　是清）

令和２年度　自然学校についてのアンケートから

本年度の自然学校推進事業は、新型コロナウイルス感染症の影響から、実施時期や期間、日程等の変更を余儀なくされました。県立南但馬自然学校（以下、本校）では、今後もより一層充実した環境づくりを目指すため、新型コロナウイルス感染症が流行している本年度に本校を利用した学校（以下、利用校）の皆様にアンケートの回答にご協力いただきましたので、その結果を報告します。

１　アンケートの実施について

（1）期間　令和２年９月４日（金）～１２月４日（金）
（2）対象　利用校の児童・保護者・教員〈表①〉
（3）方法　①アンケート用紙を配付：本校から利用校へ（利用期間中）
　　②アンケート用紙を提出：利用校から本校へ（利用から約３週間後）

表① 対象の内訳

	児 童	保護者	教 員
対象校数（校）	37	29	38
回 答 数（人）	1,593	1,087	175

２　アンケートの集計結果

（1）本校での自然学校に関して（本年度）

ア　主な体験活動

自然学校プログラムの再編成によって、利用校が以前に本校で実施したことのある体験活動が多く取り入れられました。〈図１－１〉

理由としては、“限られた時間の中でじっくりと時間をかけ、一つの内容に取り組む”といった点を重視し、“時間の見通しが立てやすく、指導体制の充実につながる”ことが想定されたためと考えられます。

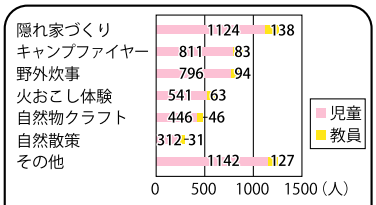

図１-１ 主な体験活動

イ　自然学校実施後の感想

（ｱ）児童

「楽しかった」が91.8％で最も多く、“友だちと協力できた”“他の班の子とも親しくなった”“自分たちの力だけで過ごせた”という記述が多くありました。また、「どちらでもない」「楽しくなかった」の理由の中には、期間が短くなったことに対して残念に思う内容もありました。〈図１－２〉

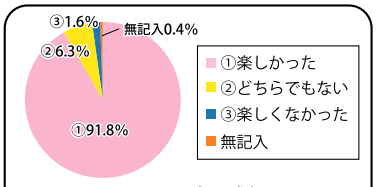

図１－２ 児童の感想

（ｲ）保護者

「よかった」が96.6％で最も多く、“普段できないことや、初めて経験する内容を体験できた”という記述が多くありました。一方、「よくなかった」の理由の中には、“コロナの感染源になったり、感染したりしないか気になった”という内容もありました。〈図１－３〉

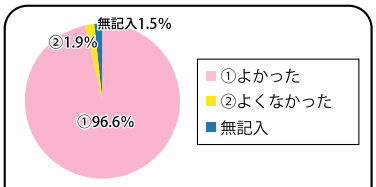

図１－３ 保護者の感想

（ｳ）児童の変化について

保護者の回答は「特に変わりなし」が大半を占め、教員の回答は「周りのことを考えて行動するようになった」「友人関係が上手になった」等の順となりました。〈図１－４〉

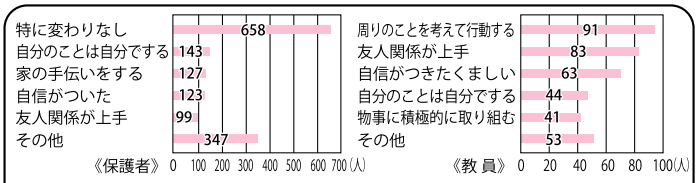

図１－４ 児童の変化について

ウ　本年度と以前の自然学校の比較

児童の成長に違いがあると「感じた」が、それぞれ保護者※で84.0％、教員で68.8％と最も多くありました。〈図１－５〉

また、「どのように違ったか」の回答の中には、表②に示す機会を望む多くの記述がありました。

新型コロナウイルス感染症の影響下でも、本校で楽しく無事に過ごせたことが、児童・保護者の満足度を高める結果となりました。そうした中、児童の変化に関する保護者の感想には、“特に変わりなし”が多くあり、児童が様々な経験をする機会とするためには、ある程度の宿泊日数が必要であると捉えられていることが分かりました。

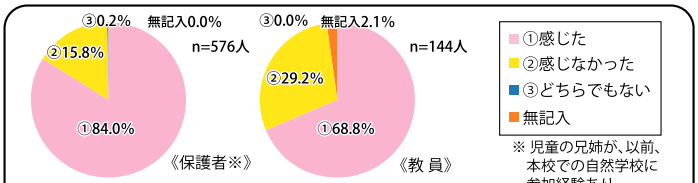

図１－５ 本年度と以前の自然学校の比較

表② 望まれた主な機会

- 自分を振り返り、新たな自分に気付く
- 課題を解決することで、達成感を味わう
- しんどくても、我慢して乗り越える
- 非日常体験の中で、日常のありがたさを感じる
- 集団行動の場面で相手を思いやり、責任を持って取り組む

コロナ禍における本校の取組について

１　はじめに

令和２年度の本校の利用校は、前年度に開催した利用調整委員会に基づき、令和元年３月末の時点で76校が決定していました。ところが、４月に政府から「緊急事態宣言」が発令され県下の公立学校は一斉休校となりました。６月に休校は解除されましたが、各小学校では１学期に予定していた学校行事の多くを２学期以降に延期、もしくは縮小、中止せざるを得なくなりました。この事態を受け、本校は利用予定校の日程変更だけでなく、受入に際してもこれまでにない対応をする事となりました。

２　日程の再調整

新型コロナウイルスの感染状況が刻々と変化する状況であったため、各市町の方針も「日程短縮」、「期間の変更」、中には「宿泊なし」など、市町の感染状況によってずいぶんと違いのあるものとなりました。

本校としては、すでに決定していた利用校の日程変更を最優先にしつつ、利用辞退によって生じた日程については、可能な限り柔軟に受入を行いました。その結果、初めて本校を利用していただく小学校や、「日帰り」利用の小学校もありました。

３　対応マニュアルの作成、設備改修など

日程の再調整と並行して、２学期からの受入に備え、職員向けの対応マニュアルの作成や消毒業務などの研修を行いました。そして、利用校向けの案内文書を作成し、各校への説明を行いました。

また、併せて施設の換気設備工事を実施し、食堂では座席配置を変更し、食卓に飛沫飛散防止シールドを設置するとともに、施設の随所に消毒スプレー、ペーパータオルを設置するなどハード面での準備も進めました。

４　出前講座の拡充

従来は主として本校の利用を予定している学校への事前学習として行っていた出前講座を、今年度は本校に来ることのできない学校のために、メニューを拡充し、「出張自然学校」としても実施しました。

「出張自然学校」では、主に「火おこし体験」、「１人用テント設営」、「自然物クラフト」を実施しました。中には、本校の丸太やロープを学校の運動場に運搬して「隠れ家づくり」を実施した学校もありました。

実施校においては、校区外で実施できないという状況の中、子どもたちのために必死に工夫をこらしていただいている先生方の姿がとても印象に残りました。

令和２年度宝塚市立末広小学校「隠れ家づくり」

５　来年度に向けて

執筆時点では県下に再び「緊急事態宣言」が発令されるなど、来年度の新型コロナウイルスの感染状況は見通せませんが、感染拡大前の生活状況にすぐに戻ることは難しいと思われます。しかしながら、今年度本校が実施した児童へのアンケートの結果（Ｐ４－５参照）からも児童は４泊５日以上での自然学校を望んでいます。各学校においては、各市町の対処方針や文部科学省の「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」を踏まえて、創意工夫を図り、是非とも４泊５日以上の自然学校を実施していただきますようお願いします。

これからも本校は利用校の先生方と連携し、児童の安心・安全な自然学校の実施に向けて努力を重ねて参ります。

（森本　裕紀）

自然学校における健康管理について

1　傷病記録より

	傷　病			受　診		
	内科	外科	合計	内科	外科	合計
令和２年 傷病発生件数	12	10	22	1	1	2
令和元年 傷病発生件数	96	34	130	6	10	16
令和２年 傷病発生率 (%)	0.38	0.32	0.69	0.03	0.03	0.06
令和元年 傷病発生率 (%)	0.57	0.20	0.77	0.04	0.06	0.09

令和２年傷病発生率は利用児童延べ人数　3,170 人で割り算出した。
令和元年傷病発生率は利用児童延べ人数 16,940 人で割り算出した。

令和２年４月７日に政府から新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出されたため、当初予定されていた自然学校の本校利用は、２学期以降に日帰り～２泊３日と期間などを短縮して実施されました(28団体1,683名:12月末現在)。

その結果、全体的な傷病発生件数は少なくなりましたが、前年度と比べると、外科の発生率が増加しました。これは、実施期間が短くなったことにより、十分な活動時間が確保しにくく、焦ったり慌てたりする場面があったからではないかと推察されます。

2　健康で安全な自然学校のために

(1) 感染症予防

今年度の自然学校は、新型コロナウイルスからの感染を予防しながらの実施となりました。野外活動、班活動が多い中で、特に「人との距離を確保する」ということが難しかったのではないでしょうか。その分、食事の前、トイレの後など、場面が変わるたびに、手洗いの徹底をしていただくことになったと思います。

感染症は新型コロナウイルス感染症だけではありません。新型コロナウイルス感染症を予防するということは、他の感染症予防にも繋がります。例えば、次亜塩素酸ナトリウム消毒液は、大腸菌、黄色ブドウ球菌などの一般細菌やウイルスに対し、広く殺菌・消毒・不活化効果があります。感染症予防に向けて常備していただけると安心ではないかと思います。

(2) 事前の健康管理

自然学校実施前から体調に不安があると、安心して活動に参加することが難しくなると思われます。あらかじめ、医療機関を受診するなど、事前の体調管理を意識していただきたいです。

また、特別な配慮を必要とする児童に関しては、かかりつけ医、保護者と連携を密に取り、救急体制、持参薬の使用方法などについて確認しておくことが大切です。

重篤な持病のある児童がいる場合は、事前にかかりつけ医の診断書などを近隣の医療機関に送るなどして連携を図ることにより、安心して受診することができます。

(3) 実施中の健康管理

自然の中には、様々な害虫がいます。本校の施設内には、ヤマビルが多く生息し吸血される場合もあります。また、マダニも生息しています。自然学校実施中は、長袖長ズボンを着用し、肌の露出を控える事が大切です。

また、本校は敷地が広く、生活棟や浴室棟などの各施設の距離が離れています。夜の活動時やお風呂上がりの湯冷めの防止など、時季に応じた昼夜の寒暖差に対応できるように、上着など、体温調節のできる衣類を準備しておくと安心して参加することができます。　（椿野　理恵子）

令和3年度講座・研修会のご案内

自然学校出前講座

実施時期日：令和3年4月～令和4年3月（実施日は各学校の要請をもとに調整します）
内　　容：◎プログラムデザインに関すること
◎自然学校に関すること
自然学校の趣旨説明・事前学習・保護者説明会（原則、本校を初めて利用する学校のみとします）
※出前授業として、県立南但馬自然学校で展開されるアクティビティの一部も行うことができます。
（ロープワーク実習、1人用テント設営、火おこし体験等）

自然学校指導者スキルアップ研修

期　　日：令和3年8月3日（火）
対　　象：県下の公立小学校教員（初任者研修及び中堅教諭等資質向上研修としても受講可）
募 集 定 員：20人
内　　容：アクティビティ指導の基礎基本 実習「五感を使った自然にふれる体験活動～もみじがりと紙すき体験～」
プログラムデザインの基礎基本 演習「自然学校プログラムデザイン」

自然学校講座（指導者入門）

期　　日：令和3年8月2日（月）～8月4日（水）※1日又は講座単位の受講も可
対　　象：大学生、一般県民、県下の公立学校教員、その他自然学校に関心のある方
募 集 定 員：20人程度
内　　容：自然学校・野外活動におけるリスクマネジメント、指導補助員の心得、兵庫型「体験教育」とは、
自然学校・野外活動における感染症対応、救急救命法、キャンプファイヤー・野外炊事指導の基礎基本
参　加　費：7,000円程度（宿泊料、食事代、リネン料、保険料、活動材料費）

プレ自然学校・アフター自然学校

期　　日：日帰り又は1泊2日
(1) 自然学校受入期間中 金曜日・土曜日受け入れ可(金曜日から土曜日にかけての1泊2日も可)
(2) 自然学校受入期間以外 全日(日曜日～土曜日)受け入れ可（日曜日以外の休校日を除く）
対　　象：県下の公立小・中学校
内　　容：自然散策、朝来山登山、自然体感ゲーム、自然物クラフト、野外炊事、隠れ家づくり、星空観察、テント泊等
経　　費：食事代(弁当持参も可)、施設使用料、活動材料費が必要です。

親子で自然学校 ～豊かな自然の中で親子のふれあいを深めましょう～

期　　日：第1回 令和３年８月28日（土）～８月29日（日）　第２回 令和３年12月11日（土）～12月12日（日）
第3回 令和４年２月５日（土）～２月６日（日）　第４回 令和４年３月12日（土）～３月13日（日）
対　　象：原則として県内の小学生とその保護者
※原則1泊2日ですが、日帰り希望も受け付けます。
募 集 定 員：10組(40人程度)
内　　容：自然物クラフト、キャンプファイヤー、火おこしと野外炊事、リースづくり、非常食づくり、
星空観察、朝来山トレッキング、バウムクーヘンづくり、焼き板づくり、竹田城跡登山等
参　加　費：宿泊料、食事代、リネン料、保険料、活動材料費等が必要です。

遊友体験活動 ～南但馬自然学校の自然を五感で感じよう～

期　　日：第1回 令和３年５月15日（土）「新緑の里山を楽しもう！～さつまいもの苗植え、春の生き物さがし～」
第2回 令和３年７月３日（土）「初夏の里山を楽しもう！～夏の生き物さがし～」
第3回 令和３年10月16日（土）「紅葉の里山で楽しもう！～さつまいも掘りと焼きいも、どんぐりみつけ～」
対　　象：県民の方(小学生以下は保護者同伴でご参加ください)
募 集 定 員：第1・2回/20人程度、第3回/60人程度
参　加　費：100円（保険料）

大人の自然教室

期　　日：第1回 令和３年４月17日（土）「春の花をさがして」
第2回 令和３年７月16日（金）「香る植物にふれる」
第3回 令和３年12月４日（土）「つる植物で遊ぶ」
対　　象：自然体験活動に関心のある県民の方
募 集 定 員：20人程度
参　加　費：100円（保険料）※内容によって食事代、活動材料費等が必要な場合があります。

令和2年度 第2回「親子で自然学校」の様子

※新型コロナウイルスの感染状況等により内容等が変更または中止になる場合があります。
※詳しくは、兵庫県立南但馬自然学校指導課までお問い合わせください。

南但馬自然学校だより「どんぐり」No.77 ● 令和３年３月 ● 兵庫県立南但馬自然学校発行
●〒669-5134 兵庫県朝来市山東町迫間字原189 ● TEL(079)676-4731 ● FAX(079)676-4008
● URL https://www.shizengakko.jp/ ● E-mail Mtajimashizen@pref.hyogo.lg.jp
02教 Ⓟ2-023A4
VEGETABLE OIL INK 資源保護のため環境に優しいベジタブルインキで印刷しています。